

東方青龍

とうほうせいりゅう(Green Dragon)

伊勢崎市立あずま中学校

学校通信 NO.363

令和8年9月4日(金)



全国学力学習状況調査の結果について

令和8年4月21日(火)23日(木)、5月8日(金)に実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されましたので、本校の状況についてご報告いたします。1学期末に3年生の生徒には個人票を配布(英語4技能については9月3日)しておりますが、今回は国語、数学、英語の教科に関する結果と、生徒質問紙(生活・学習状況アンケート)の結果の分析、及び今後の取組についてお知らせいたします。

I 各教科の結果(○良かった点 ●課題となる点)

(1) 国語

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| ○必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること | 【話すこと・聞くこと】 |
| ○表現の効果を考えて描写すること | 【書くこと】 |
| ●文章の中心的部分と付加的な部分を、叙述をもとに見分けること | 【読むこと】 |
| ●文脈に即した漢字の使用・助詞の働き・単語の類別など | 【言葉の特徴や使い方に
関する事項】 |

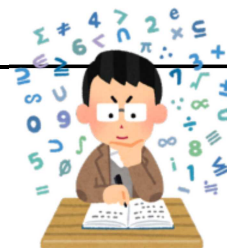


国語科全体の平均正答率は、全国をやや下回る結果となりました。特に国語科においては、「思考力・判断力・表現力」に比べ、「知識・技能」において全国との差が顕著となっております。各領域においては、「書くこと」が良好である一方、「読むこと」に課題が残る結果となりました。

今後は、漢字の文脈に応じた使い分けや助詞・品詞の働きの定着を目指し、基礎的な学習の徹底と復習を行います。また「読むこと」では、叙述に基づいた読解を意識させることで読解力を養うとともに、「書くこと」で発揮されている表現力を読解や語彙定着にも波及させ、総合的な国語力の底上げを図っていきます。

(2) 数学

- | | |
|--|-------|
| ○与えられた表やグラフから必要な情報を読み取ること | 【関数】 |
| ○同類項の意味を理解すること | 【数と式】 |
| ●事象の即して解釈し問題解決の方法を数学的に説明すること | 【関数】 |
| ●角を的確に捉えること・筋道を立てて考え証明すること・具体的な事象を基に証明する事柄の仮定を見いだすことなど | 【図形】 |

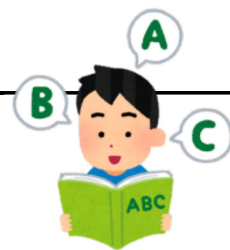


数学科全体の平均正答率は、全国を下回る結果となりました。特に数学科においては、国語科とは対照的に「知識・技能」に比べ、「思考力・判断力・表現力」において全国との差が顕著となっております。各領域においては、「関数」「図形」に課題が残る結果となりました。特に、記述式の問題形式には苦手意識が高いようでした。

今後は、具体的な事象から仮定・結論を見いだす「発見的な学び」を取り入れます。「なぜこうなるんだろう?」と生徒自らが仮定や決まりを発見できる場面をつくりつつ、自分の考えを言葉や図で友達に説明し合うグループ活動を増やします。「なぜそう言えるのか」という理由を筋道立てて伝える経験を重ねることで、証明や問題解決の力を育てていきます。

(3) 英語

- 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用すること 【書くこと】
- 日常的な話題について、事実や自分の考え気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書いたり、話したりすること 【書くこと】【話すこと】



英語科全体の平均正答率は、全国を下回る結果となりました。特に英語科においては、数学科と同様に「知識・技能」に比べ、「思考力・判断力・表現力」において全国との差が顕著となっていました。「書くこと」「話すこと」においても、いくつか提示された条件を満たしながら、文法的な誤りなく表現することに対して苦手意識があるようでした。特に単語数の増える長文になると顕著に現れているようでした。

今後は、単語や文法の知識を覚えるだけでなく、実際の文脈の中で正しく活用する実践的な学習を重ねていきます。条件に合わせて自分の考えを英語でまとめたり、学んだ文法を使って短い英作文を書いたりする活動を日常的に取り入れます。また、読解で触れた表現を「書くこと」「話すこと」へつなげるアウトプットの機会を増やしつつ、発信力の定着と総合的な英語力の向上を図っていきます。

2 生徒質問紙の結果（○良かった点 ●課題となる点）

- 生活習慣について（「早寝・早起き・朝ご飯」、スマートフォン等を使用したSNSや動画視聴）
- 学習習慣について（授業を除く1日の学習時間・土日の学習時間）
- 国語・数学に対する学習意識及び学習活動（教科への苦手意思・意欲など）
- 学びの自己調整について（学習への理解度をとらえて、自分から学習を工夫すること）
- ICTを活用した学習状況（活用状況及び身につけている技能など）
- 英語に対する学習意識及び学習活動（教科への苦手意思・意欲など）



全国との比較において、生活習慣や学習時間の定着、国語・数学の苦手克服に向けた意欲が見られる一方、自律的な学びの工夫（自己調整）やICTを活用した情報活用能力の育成、英語への学習意欲向上が今後の大きな課題です。

今後は、ICT端末を授業・家庭学習で日常的に活用し、児童生徒が自らの理解度に応じて問題を選択・解き直す「個別最適な学び」を推進します。あわせて、英語ではより対話的・体験的な活動を取り入れ、苦手意識の払拭と発信力の育成を図ってまいります。日々の生活リズムを整えつつ、デジタルツールも上手に取り入れながら、自分で考えて学ぼうとする力を育てていきます。